

令和 4 年 6 月 6 日現在

機関番号：34601

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2021

課題番号：17K03221

研究課題名(和文) 日本古代尼寺の考古学的研究

研究課題名(英文) Archaeological investigations of Buddhist nunneries in Early Japan

研究代表者

清水 昭博 (SHIMIZU, AKIHIRO)

帝塚山大学・文学部・教授

研究者番号：20250384

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は「日本古代尼寺の考古学的研究」をテーマとする。本研究は飛鳥時代の寺院跡から尼寺の遺跡を抽出することを主な目的として実施した。尼寺を抽出するにあたっては、特に僧寺との関係を重視し、飛鳥・斑鳩、大和の諸地域、畿内その他の国々で、近接する立地にあり、意図的に近距離に建立された「僧寺と尼寺」の関係にあると想定される寺院を中心に尼寺の抽出を試みた。その結果、大和の片岡や山辺、山背、播磨、近江、伯耆の各地域で、新たに尼寺と推定される寺院跡を特定することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は「日本古代尼寺の考古学的研究」をテーマとする。本研究は飛鳥時代の寺院跡から尼寺の遺跡を抽出することを主な目的として実施し、大和の片岡や山辺、山背、播磨、近江、伯耆の各地域で尼寺と推定される寺院跡を特定することができた。本研究によって、これまで古代寺院として一括して取り扱われてきた寺院を僧寺と尼寺に区別することが可能となり、古代の仏教史や地域史、女性史に新しい視点を与えることができたといえる。

研究成果の概要(英文)：The theme of this research project is “Archaeological investigations of Buddhist nunneries in Early Japan.” A case study involving the monastery if reference to a nunnery cannot be located in the historical record, our research observed that modern place names can retain traces of the past to reveal a now-lost nunnery that once existed in the vicinity; that is, modern place names can serve as useful indicators to identify traces of nunneries, and on the basis of this methodology, this study established a series of new place names that indicate a connection to a nunnery in the following regions: Kataoka and Yamabe in Yamato Province, Yamashiro Province, Harima Province, Omi Province, and Hoki Province.

研究分野：考古学

キーワード：飛鳥時代 寺院 尼寺 僧寺 仏教 尼 僧 瓦

1. 研究開始当初の背景

古代の尼寺に関する研究には文献史学からのアプローチはあるが(勝浦令子『古代・中世の女性と仏教』2003年など)、史料の限界がある。そうした意味で、古代の尼寺を解明するには考古学的研究の役割が大きいといえる。しかし、これまでに考古学から古代の尼寺を分析した研究は少ない状況にあった。

2. 研究の目的

本研究の目的は飛鳥時代の古代寺院遺跡から尼寺を抽出し、それらを考古学的に分析することによって、日本古代の仏教史において重要な役割を果たした尼寺の実像を明らかにするものである。

3. 研究の方法

本研究ではこれまでの研究を参考に、各地の古代寺院の文献史料や地名、遺跡の立地(特に僧寺との関係)や瓦をはじめとする遺物によって尼寺を抽出することとした。

4. 研究成果

本研究は、「尼寺を中心とした古代寺院の考古学的研究」をテーマとして、尼寺の存在が想定できる地域(1)、尼寺のネットワークが想定できる瓦(2)、各地の「僧寺と尼寺」の関係にあると想定される寺院(3)について分析をおこない、最終的に以下の成果を得ることができた。

(1) 近江国愛知郡の古代寺院造営とその背景を探るべく、日本への仏教伝来と初期仏教の様相、日本最初の本格的寺院である飛鳥寺の造営、地方寺院の造営とその背景を検討し、愛知郡の古代寺院のなかでも特に湖東式軒丸瓦を採用する寺院の造営背景について考古学的視点から考えた。その結果、同郡大国郷の野々目廃寺を、朴市秦造田来津をはじめとする白村江の戦いの戦没者を供養してその事績を顕彰する目的で、その一族により建立された尼寺と考えた。また、野々目廃寺の瓦を祖型とする湖東式軒丸瓦は朝鮮半島の瓦をモデルにした瓦であり、その創作への渡来僧の関与の可能性を想定した。さらに、湖東式軒丸瓦が湖東・湖北地域など各地へ波及する状況が、野々目廃寺を中心とした尼僧の活動と関わる可能性を示した。(文献)

(2) 斑鳩の尼寺である中宮寺の創建瓦 3Bb、4A、M1、M2 について検討し、各々が採用された背景について考えた。その結果、軒丸瓦 3Bb・4A の製作年代が7世紀初頭であり、史料によって想定される中宮寺の建立年代よりかなり年代がさかのぼることを再確認し、中宮寺の前身である「中宮」の仏堂にかかわる瓦と評価した。また、軒丸瓦 M1・M2 については、豊浦寺式、奥山廃寺式の祖型である豊浦寺、奥山廃寺(小壘田寺)の瓦を模倣し、新たに瓦当文様を創作したものと判断し、尼寺である豊浦寺、小壘田寺にこだわり、意図的に採用した可能性を考えた。(文献)

(3) 文献史料に残る飛鳥時代の尼寺を紹介し、百済、飛鳥・斑鳩、大和の各地域、畿内その他の国々において、近接する立地にあつて「僧寺と尼寺」の関係にあると想定される寺院を中心に、尼寺の抽出を試みた。そのなかで、飛鳥寺と豊浦寺の事例からみて、「僧寺と尼寺」として造営された寺院が寺院造営当初からその図式があつたと考えられることを指摘した。また、その導入には、『元興寺縁起』が記す通り、百済の影響があつたものと考えた。僧寺と尼寺の距離については、おおむね1キロメートル以内に立地することを指摘した。また、「僧寺と尼寺」の関係を認定するうえで瓦の関係が重要であることを改めて確認した。

しかし、『出雲国風土記』が記載する大原郡の新造院のように、同じ郷内の寺院でも壇越が異なる場合もあり、寺院建立者の比定に注意を要することを指摘した。また、尼寺に関わる史料がない場合でも、寺院跡周辺に残る地名が尼寺を抽出する際の手がかりになることを指摘した。今回の検討では、大和の片岡、奈良盆地東山麓、山背、播磨、近江、伯耆の各地域で尼寺に関わる地名を確認することができた。(文献)

引用文献

清水昭博 2021 「考古学からみた仏教伝来の様相 - 愛知郡の古代寺院を考える - 」『入門！古代寺院 - 旧愛知郡編 - 』愛荘町立歴史文化博物館

清水昭博 2022 「中宮寺軒丸瓦 3Bb・4A の評価」『帝塚山大学考古学研究所研究報告 24号』帝塚山大学考古学研究所

清水昭博 2022 『日本古代尼寺の考古学的研究』(科学研究費補助金研究報告書)、帝塚山大学文学部

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 清水昭博	4. 巻 17
2. 論文標題 日本帝塚山大学附属博物館所蔵韓国瓦磚コレクションの概要	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国外韓国文化財（『日本帝塚山大学附属博物館所蔵韓国文化財』）	6. 最初と最後の頁 28 - 47
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 清水昭博	4. 巻 16
2. 論文標題 考古学からみた新羅と古代日本の仏教文化	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ザ・グレイトブッタ・シンポジウム論集(新羅仏教の思想と文化)	6. 最初と最後の頁 99 - 110
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 清水昭博	4. 巻
2. 論文標題 蘇我氏の邸宅と瓦-畝傍の家と橿原遺跡の瓦-	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 帝塚山大学考古学研究所研究報告	6. 最初と最後の頁 135 - 150
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 清水昭博	4. 巻 141
2. 論文標題 百済の王宮と瓦生産	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 古代	6. 最初と最後の頁 3-28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 清水昭博	4. 巻 2
2. 論文標題 聖徳太子と古代の三郷	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 奈良学研究所の現在	6. 最初と最後の頁 5-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 清水昭博	4. 巻 24
2. 論文標題 中宮寺軒丸瓦3Bb・4Aの評価	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 帝塚山大学考古学研究所研究報告	6. 最初と最後の頁 33-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 清水昭博
2. 発表標題 聖徳太子と楠葉 聖徳関連遺跡の研究 -
3. 学会等名 帝塚山大学考古学研究所・附属博物館共催第 441回市民大学講座
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 清水昭博
2. 発表標題 古代瓦を語る - 大和の古寺を中心に -
3. 学会等名 帝塚山大学考古学研究所・附属博物館共催第446回市民大学講座
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 清水昭博
2. 発表標題 韓日瓦の性格と特徴の比較
3. 学会等名 韓国慶熙大学校博物館国際シンポジウム『韓国瓦研究』
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 清水昭博
2. 発表標題 日本古代尼寺の考古学的研究
3. 学会等名 奈良県立橿原考古学研究所第361回研究集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 清水昭博
2. 発表標題 百済寺院の立地 - 谷に造営された寺々 -
3. 学会等名 第11回百済文化国際シンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 清水昭博
2. 発表標題 百済の王宮と瓦生産
3. 学会等名 帝塚山大学考古学研究所・歴史考古学研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 清水昭博
2. 発表標題 法隆寺の瓦を求めて - 聖徳太子と古代の三郷 -
3. 学会等名 帝塚山大学考古学研究所・市民大学講座
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 清水昭博
2. 発表標題 飛鳥仏教と尼寺～考古学からのアプローチ～
3. 学会等名 飛鳥学講演会（招待講演）
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 清水昭博（共著）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 愛荘町立歴史文化博物館	5. 総ページ数 27
3. 書名 『入門 古代寺院－旧愛知郡編－』	

1. 著者名 清水昭博（共著）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 慶熙大学校中央博物館（韓国）	5. 総ページ数 263
3. 書名 『韓国の瓦』	

1. 著者名 清水昭博（共著）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 忠清南道・忠清南道歴史文化研究院	5. 総ページ数 550
3. 書名 『日本のなかの百済 - 本州・四国地域 - 』	

1. 著者名 清水昭博	4. 発行年 2020年
2. 出版社 帝塚山大学考古学研究所	5. 総ページ数 34
3. 書名 聖徳太子関連遺跡の研究 - 法隆寺創建瓦生産窯の調査 -	

1. 著者名 清水昭博	4. 発行年 2022年
2. 出版社 帝塚山大学文学部	5. 総ページ数 64
3. 書名 日本古代尼寺の考古学的研究（科学研究費補助金研究報告書）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	鈴木 裕明 (SUZUKI Hiroaki)		
研究協力者	大西 貴夫 (OHNISHI Takao)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 帝塚山大学考古学研究所・市民大学講座（古代の尼寺を考える）	開催年 2019年～2019年
---	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------